

増え続ける障がい児に対応した『特別支援教育』を文部科学省が推進。

いずれにしても間違いないのは障がい児が年々増え続けているという事です。これにともない、文部科学省では特別支援教育という施策がとられています。特別支援教育とは、日本の学校教育において、障害のある幼児・児童・生徒の自立や社会参加への主体的な取り組みを支援するための指導及び支援を意味する概念を指します。平成18(2006)年3月の学校教育法等改正を受け、翌、平成19(2007)年4月に特別支援教育の本格的実施が開始されました。

それまで養護学級や特殊教育と呼ばれていた状況から、全国各地に特別支援学校が設立され、普通教育の現場には特別支援学級が設立されています。

この状況は本紙 vol.3 の『ヤングケアラ』の記事の中でも紹介していますが、特別支援学校や特別支援学級における生徒数も当然ながら増加しています。

障がい福祉サービスの一つ『放課後等デイサービス』の開所が増加。

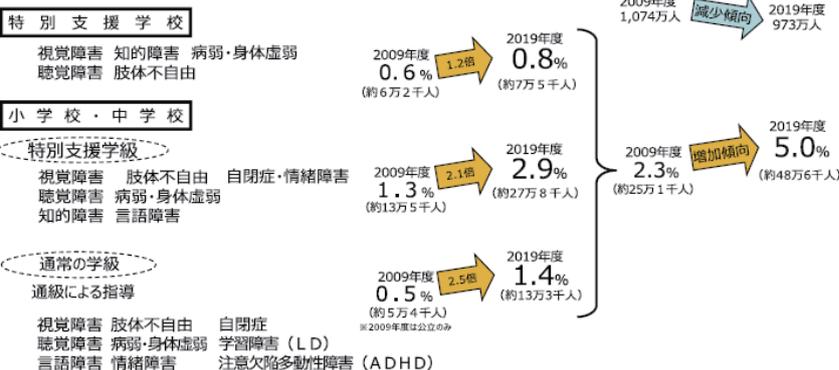
また一方で増え続ける障害児への対応を行なう障がい福祉サービスが『放課後等デイサービス』です。略称として『放デイ』とも呼ばれています。『放デイ』は当法人以外でも年々開設される件数が増えています。残念ながら悪質な事業所ではアニメのマンガを鑑賞させて時間を費やすのみといった所もあると聞きます。

当法人では美濃加茂市にて『ほたる学園 美濃加茂校』(https://hotaru.school)ならびにパートナー法人である東美濃福祉事業支援友の会による『ほたる学園 美濃加茂東校』を運営しています。また今後『美濃加茂西校』の開校も本年夏から秋にかけて予定しています。

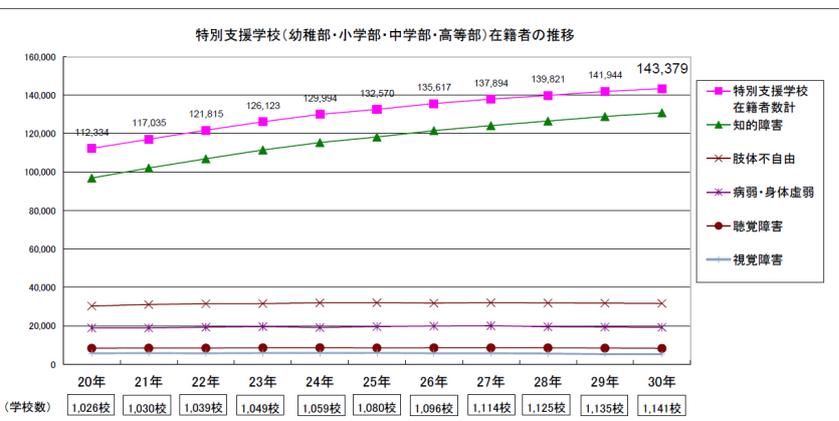
放デイにおいては、ご利用者である障がい児の方々お一人お一人の障がい特性に合わせた療育を行う必要があります。ご両親もしくは保護者の方々と相談支援員さんを変えて、個別支援計画を策定し、目標とそれを実現していく上での支援の在り方を綿密に組み立てていきます。

発達障害の場合は就学以前の早期発見、早期対応が重要との指摘もあり、放デイ以前の課題も存在します。いずれにしても支援は早期スタートの方が、より成果が出やすい傾向があります。とすると施設利用自体をなかなか決断できずに遅れるケースもあります。一日でも早く、お気兼ねなくご相談願います。

特別支援学校等の児童生徒の増加の状況

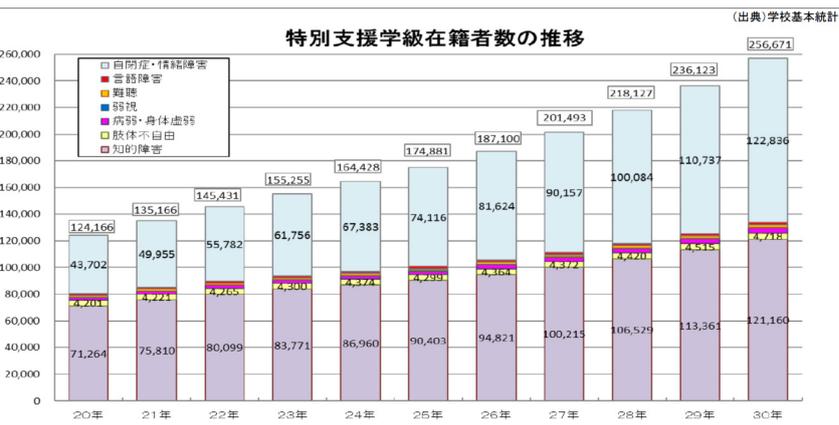


〔発達障害(LD・ADHD・高機能自閉症等)の可能性のある児童生徒：6、5%程度※の在籍率
※この数値は、2012年に文部科学省が行った調査において、学級担任を含む複数の教員により判断された回答に基づくものであり、医師の診断によるものではない。〕



<30年度の状況>

| | 視覚障害 | 聴覚障害 | 知的障害 | 肢体不自由 | 病弱・身体虚弱 | 計 |
|-----------------|--------------|--------------|-----------------|-----------------|--------------|-----------------|
| 学校数 | 81 | 117 | 781 | 350 | 152 | 1,141 |
| 在籍者数 | 5,315 | 8,164 | 130,817 | 31,676 | 19,277 | 143,379 |
| 教員数(本務) (兼務) | 2,801 311 | 4,144 372 | 51,101 3,126 | 15,181 1,054 | 3,250 237 | 76,477 5,100 |



■文部科学省サイトより 日本の特別支援教育の状況について

https://www.mext.go.jp/kaigisiryoy/2019/09/_icsFiles/afiedfile/2019/09/24/1421554_3_1.pdf

障がい者グループホーム『ほたるの里』『ほたるの杜』の最新空き室情報は以下のサイトで！

<https://hotaru.homes>



ほたる福祉通信

URL : <https://hotaru.fukushi.news>
e-mail : contact@hotaru.fukushi.news



210715

005